

大会展望

総合力秀で大阪桐蔭 仙台育英はVメンバー残る



総合力に秀でる前回王者の大阪桐蔭、昨夏の優勝メンバーが多く残る仙台育英（宮城）が優勝争いの中心となりそうだ。

大阪桐蔭は昨秋の明治神宮大会で連覇した。大黒柱は昨春の選抜大会決勝でも先発した左腕の前田。走者を出した後の制球が良く、

関西学院との練習試合で本塁打を放つ大阪桐蔭・徳丸＝8日、兵庫県西宮市

大崩れしない。野手陣は例年のチームより小粒だが、中軸を打つ下級生の徳丸を軸に切れ目がない。2015年大会で北陸勢初優勝した敦賀気比（福井）との初戦が注目される。このプロッは沖縄尚学も入り、昨秋の地区大会王者が集まった。

仙台育英はエース高橋に加えて仁田、湯田という昨夏の甲子園を知る強力投手陣

が特長。初戦でぶつかる慶応（神奈川）は甲子園通算最多本塁打の記録を持つ和博さんを父に持つ清原ら強打者が並び昨秋、全出場校トップの15本塁打を放った。同じブロックでは好投手の宮国を擁する過去最多5度優勝の東邦（愛知）、強肩強打の捕手、堀が軸となる報徳学園（兵庫）も完成度が高い。

神宮大会準優勝の広陵（広島）二松学舎大付（東京）も好カード。投手では球速が150km/hを超える専大松戸（千葉）の平野、188cmから投げ下ろす東北（宮城）のハップスが注目株だ。

無死一、二塁から始まるタイプブレークの開始が従来の延長十三回から十回に変更。延長戦を見据えた監督の采配も鍵を握りそうだ。

好環境 モチベーション向上

パラローイング 米子合宿スタート



かじ付き4人スカルの練習をする日本代表コックスの来海（左）ら＝錦海ポートコース

日本ローイング協会（日本ボート協会から改称）のパラローイングチームの強化合宿が10日、米子市の錦海ポートコースを拠点に始まっている。

また、2024年のパリパラリンピック出場を目指す選手らが、国内屈指の環境が整ったコースで練習に取り組んでいる。

東京パラリンピック代表や同協会の23年度育成指定選手ら計13人が参加。鳥取県関係は、昨年の世界選手権（チエコ）に出場した森卓也（養和会）、日本代表コックスの来海泰志（米子東高）、戸田中央総合病院RC）が加わっている。

チームは神奈川県の相模湖を拠点に練習を重ねている。選手たちのモチベーション向上のために合宿地を探す中で、水面と桟橋の高低差が安定し、宿泊施設や空港からアクセスが良く、錦海ポートコースが選ばれた。

相見 西 準優勝

スプリント 金馬 西 4位以上確定

全国高校選抜自転車大会第1日は10日、北九州メディアドームで開幕し、鳥取県勢は女子500mタイムトライアルで相見涼花（倉吉西）が準優勝に輝いた。

2000m個人追いは田中輝（倉吉西）が7位に入賞した。同会は女子500mタイムトライアル（T）の相見涼花（倉吉西）が4位以上確定した。大会第2日の11日は女子2000m個人追いは田中輝（倉吉西）が5位、男子1000mタイムトライアル（T）は飯田陽生（倉吉西）が予選を突破した。

大会第2日の11日は女子2000m個人追いは田中輝（倉吉西）が5位、男子1000mタイムトライアル（T）は飯田陽生（倉吉西）が予選を突破した。

後半伸びて自己ベスト相見

自転車の全国選抜大会第1日は10日、北九州メディアドームで開幕し、鳥取県勢は女子500mタイムトライアルで相見涼花（倉吉西）が準優勝に輝いた。

東邦（愛知）

最多5度の選抜優勝誇る

秋の東海王者。甲子園には春夏通算47度出場し、歴代最多5度の選抜優勝を誇る。エース宮国は最速149km/hの直球と切れのあるフォークを武器とする。右翼を守る岡本、父が元中日で189cmと身長140cmの山北も中盤の球を投げる。3人の右腕をレベルの高い内外野陣が支える。東海大会3試合で25得点の打線も強力。上位から下位まで切れ目がなく、チーム打率は3割7分を誇る。



女子500mタイムトライアルで準優勝を飾った相見涼花＝北九州メディアドーム

県勢は男女とも途中棄権

子（井上暖）（鳥取城北）、女子（中田花菜）（米子東）がともに途中棄権に終わった。記録は県勢分。

スキートの全国高校選抜大会アルペン種目最終日は10日、長野県志賀高原ジャイアントスキーマで男女の回転が行われ、鳥取県勢は男

子（井上暖）（鳥取城北）、女子（中田花菜）（米子東）がともに途中棄権に終わった。記録は県勢分。

スキートの全国高校選抜大会アルペン種目最終日は10日、長野県志賀高原ジャイアントスキーマで男女の回転が行われ、鳥取県勢は男